

第66回 日本老年医学会学術集会

2024年 6/13^木~15^土

会長 荒井 秀典 (国立長寿医療研究センター 理事長)

会場 ウィンクあいち



シンポジウム 1 老年医学会の成果の社会実装を目指して 日本老年医学会の役割

杏林大学医学部高齢医学 神崎 恒一

日本老年医学会COI 開示

本発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業などはありません



一般社団法人 日本老年医学会
THE JAPAN GERIATRICS SOCIETY

一般社団法人 日本老年医学会

- 学会の目的: 老年医学に関する研究の振興及び知識の普及、会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより、老年医学の進歩を図り、もって我が国における学術文化の発展に寄与し、社会に貢献すること
- 会 員 数: 6,550人(2024年5月31日)
- 老年科専門医: 1,741 名
- 高齢者栄養療法認定医: 140 名
- 老人保健施設管理認定医: 311 名
- 現執行部体制(2023年6月～)
 - 理事長: 神崎 恒一(杏林大学)
 - 副理事長: 大石 充(鹿児島大学)
 - 飯島 勝矢(東京大学)



ご挨拶



理事長 神崎 恒一（こうざき こういち）

（杏林大学医学部高齢医学教授）

1986年 東京大学医学部卒業
東京大学医学部老年病学教室入局、助教、講師を経て
2005年 杏林大学医学部高齢医学助教授（准教授）
2010年 杏林大学医学部高齢医学教授
2019年 日本老年医学会 副理事長
2023年 日本老年医学会 理事長

この度、秋下雅弘先生（東京大学大学院医学系研究科 老年病学 教授）の後任として、本会の理事長に就任いたしましたのでご挨拶申し上げます。

老年医学は社会とのかかわりが強いことも特徴です。当ホームページ「[提言・見解](#)」でご覧いただけますように、「高齢者のオンライン診療に関する提言」、「新型コロナウイルス感染症流行下において認知症の人を含めた高齢者と家族を支えるための学会員への提言」、「ACPに関する提言」、「高齢者の定義と区分に関する提言」、「エンド・オブ・ライフに関する提言・見解」、「改正道路交通法施行に向けての提言」、「フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント」など社会に向けて様々な提言を発信させていただきました。そして、2023年6月「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が国会で可決されましたが、ここには日本老年医学会からの意見がきちんと反映されており、このことは学会として大変有意義なものと捉えています。このような国民や社会に向けた活動は学会として大変重要であり、これからも積極的に行っていきたいと考えております。

その他、2018年から「[健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画](#)」を策定し、計画に沿ってさまざまな活動を行ってきました。その5本の柱の中にはフレイル対策や認知症への社会的施策推進、高齢者の定義が挙げられており、上述したように一定の成果を挙げたことは学会活動が計画に沿って実行されたことを裏づけるものです。2023年は新5か年計画を策定する年であり、2023年度中に公表する予定です。ここをご覧いただければ私どもの学会活動の具体的内容がお判りいただけると思います。新5か年計画では2018年版を基本として、科学的介護やフレイル予防、認知症基本法に基づく共生社会の実現、ICT・IoT・ロボット技術・AI など Gerontechnologyの技術開発と社会実装などを目標に掲げる予定です。

日本老年医学会がこれまで行った社会に向けた活動 ならびに情報発信

2001年 「高齢者の終末期医療およびケア」に関する「立場表明」

2008年 後期高齢者総合評価加算

2011年 高齢者災害時医療ガイドライン

2012年 高齢者ケアの**意思決定プロセス**に関するガイドライン

2014年 **フレイル**に関するステートメント

2015年 「高齢者の安全な**薬物療法**ガイドライン2015」

2016年 薬剤総合評価調整加算

2017年 **高齢者の定義**と区分に関する提言（日本老年学会と合同）

- ・ **サルコペニア**診療ガイドライン2017（日本サルコペニア・フレイル学会、国立長寿医療研究センターと合同）
- ・ 「**認知症高齢者の自動車運転**に関する専門医のための Q&A 集」（5学会合同）

2018年 健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画

- ・ **フレイル**診療ガイド2018（国立長寿医療研究センターと合同）
- ・ 高齢者の**医薬品適正使用**の指針（厚労省）

日本老年医学会がこれまで行った社会に向けた活動 ならびに情報発信

2019年 **ACP推進**に関する提言および事例集

- ・ 高齢者**在宅医療**・介護サービスガイドライン2019

2020年「介護老人保健施設における新型コロナウイルス感染症対応ガイド」

- ・ 「新型コロナウイルス流行期において高齢者が最善の医療およびケアを受けるための日本老年医学会からの提言（ACP実施のタイミング）」
- ・ 「認知症をお持ちの方とそのご家族の方へ」

2021年 介護施設内での**転倒**に関するステートメント（全老健と合同）

2022年「高齢者の**オンライン診療**に関する提言」

2023年 共生社会の実現を推進するための**認知症基本法**

- ・ 老年科専門医が**レカネマブ**使用資格医に

2024年 **オーラルフレイル**に関する3学会合同ステートメント

- ・ **高齢者総合的機能評価に基づく診療・ケアガイドライン2024**
- ・ **第二次5か年計画（2024）**
- ・ **高齢者に関する定義**

社会に向けた活動ならびに情報発信（作業中の活動）

- 日本在宅ケアアライアンス(全国22団体加盟)との協調活動
(在宅医療小委員会)
- 「高齢者在宅医療・介護サービスガイドライン2019」を踏まえた
次の共同成果物の作成（在宅医療小委員会）
- 安全な薬物療法ガイドライン改定版の発刊
- 「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン-人工的水分・
栄養補給の導入を中心に2012」改訂作業開始（EOL小委員会）
- フレイル、サルコペニアに対する一次予防に関するガイドライン発出

オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント

2024年4月1日

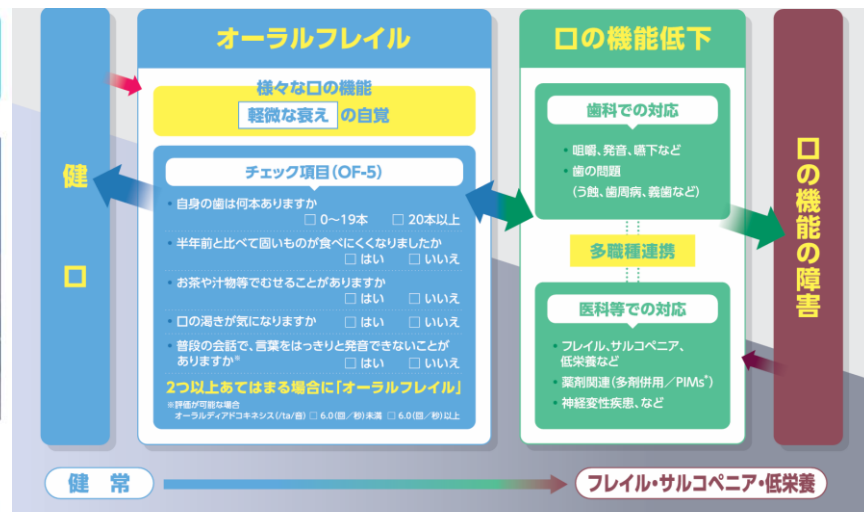
オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント



2024年4月1日

日本老年医学会は、日本老年歯科医学会と日本サルコペニア・フレイル学会とともに、「オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント」を発表し、本日の記者会見を行いました。

オーラルフレイルは、口の機能の健常な状態（いわゆる『健口』）と『口の機能低下』との間にある状態です。咬みにくさ、食べこぼし、むせ、滑舌の低下などのオーラルフレイルの症状は、身体的（フィジカル）フレイル、社会的（ソーシャル）フレイル、精神・心理/認知的（メンタル/コグニティブ）フレイルなどに代表される、高齢期に生じる複数の課題が重複して生じる“口の衰え”であり、改善可能な状態です。つまり、早期にオーラルフレイルの兆候を評価して適切な対策を行うことにより、機能低下を緩やかにし、さらには改善する可能性があります。これまでの介入研究の知見でも、その可能性が示されています。



*Potentially Inappropriate Medications (潜在的に不適切な処方)

オーラルフレイルの概念図 (医療関係者・専門職向け)

一般社団法人 日本老年医学会
一般社団法人 日本老年歯科医学会
一般社団法人 日本サルコペニア・フレイル学会



オーラルフレイルの概念図 (一般市民向け)

一般社団法人 日本老年医学会
一般社団法人 日本老年歯科医学会
一般社団法人 日本サルコペニア・フレイル学会

2024 年改訂版
多様性に配慮した循環器診療ガイドライン

JCS/JCC/JACR/JATS 2024 Guideline on Cardiovascular Practice with Consideration for Diversity, Equity, and Inclusion

合同研究班参加学会

日本循環器学会 日本心臓病学会 日本心臓リハビリテーション学会 日本胸部外科学会
日本不整脈心電学会 日本心臓血管外科学会 日本血管外科学会
日本小児循環器学会 日本心血管インターベンション治療学会 日本心不全学会
日本心エコー図学会 日本老年医学会
日本性差医学・医療学会 日本脳卒中学会 日本動脈硬化学会
日本脈管学会 日本精神神経学会 日本産科婦人科学会
日本母性内科学会 GID（性同一性障害）学会 日本肺高血圧・肺循環学会

班長

塚田(哲翁) 弥生
日本医科大学大学院医学研究科
総合診療・健康科学

なお、本ガイドラインで扱う年齢に関する定義は表1⁷⁾のとおりとした。

表 1 年齢に関する定義

年齢(歳)	名称(日本語)	名称(英語)
15～45	若年者／若年期	young
65～74	前期高齢者／准高齢期	pre-old
75～89	高齢者／高齢期	old
90～	超高齢者／超高齢期	oldest-old, super-old

(高齢者の定義は日本老年医学会・日本老年学会編「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ」報告書⁷⁾を参照)

高齢者に関する
定義検討
ワーキンググループ

報告書

2017

65～74 歳	准高齢者	准高齢期	(pre-old)
75～89 歳	高齢者	高齢期	(old)
90 歳～	超高齢者	超高齢期	(oldest-old, super-old)

日本老年学会・日本老年医学会

2017年

高齢者および高齢社会に関する検討 ワーキンググループ報告書2024



JFGS

日本老年学会
The Japan Federation of
Gerontological Societies

国内外の定義と関連する調査研究

統計データを用いた高齢者健康状態の考察

身体的老化の経時的データ

口の老化の経時的データ

人生100年時代の認知症とこころの健康問題

高齢者の社会参加とエイジズム

老化分子バイオマーカーと老化制御の基礎医学的展望

高齢者のケア

要支援・要介護状態の高齢者の現状と経済問題

経済学、社会政策からみた高齢化・長寿化問題

健康長寿を支えるテクノロジー

高齢社会対策大綱の策定のための検討会(令和6年2月～)

【健康・福祉】

- 高齢社会に対応した医療・介護の在り方
- 介護と仕事の両立支援の在り方
- 認知症の高齢者の増加を踏まえた地域・社会の在り方
- 「社会的処方」の在り方
- 難聴対策

【就業・所得、学習・社会参加】

- 年齢にかかわらず、希望に応じて働き続けられるための環境整備
- 就業以外の地域・社会活動への参画拡大
- 学習機会の提供
- 認知機能の低下等に対応した資産の管理・運用等に係る支援

高齢社会対策大綱の策定のための検討会(令和6年2月～)

【生活環境】

- 安心して居住できる環境整備
- 空き家対策
- 身寄りのない高齢者への支援
- 高齢運転者の交通安全対策
- 地域における移動ニーズへの対応策
- 災害対策

【金銭・経済】

- 資産形成等の促進のための環境整備
- 消費者被害防止対策
- 年金制度

【研究開発・国際貢献等】

- 高齢社会対策に資する研究開発の推進
- 日本の知見の国際社会への展開



日本老年医学会
The Japan Geriatrics Society



日本老年社会科学会
Japan Socio-Gerontological Society



日本基礎老化学会
The Japan Society for Biomedical Gerontology



日本老年歯科医学会
The Japanese Society of Gerodontology

日本老年学会は7学会で
構成されています

日本老年学会として
IAGGに加盟しています



日本ケアマネジメント学会
Japan Society of Care Management



日本老年看護学会
Japan Academy of Gerontological Nursing



日本老年薬学会
Japanese Society of Geriatric Pharmacy



日本老年学会
The Japan Federation of
Gerontological Societies



第67回
日本老年医学会学術集会

会期 2025 6/27(金)・28(土)・29(日)

会場 幕張メッセ 国際会議場・TKP東京ベイ幕張ホール
(千葉県千葉市美浜区ひび野 2丁目3)

会長 神崎 恒一 杏林大学医学部高齢医学教室 教授

健康長寿達成を支える 老年医学推進5か年計画2024

基本理念

ウィズエイジングを科学する老年医学
－健康長寿社会構築のための基盤充実化と**社会実装**の推進－

5つの柱

- I **老年医学・高齢者医療** の普及・啓発
- II **フレイル** 予防・対策による健康長寿の達成
- III **認知症** への効果的な早期介入と社会的施策の推進
- IV **エイジフリー社会** を目指した調査研究とその実現に向けた取り組み
- V **基礎老化研究** の育成・支援

「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画2024」

I 老年医学・高齢者医療 の普及・啓発

- 1) 豊かな人生の最終段階を実現するための医療とケアの推進
 - A. 老年医学の重要性の啓発
 - B. 高齢者包括的医療の推進
 - C. 在宅医療の推進
 - D. エンドオブライフケア, ACPに関する啓発活動の推進
 - E. 科学的介護を取り入れた高齢者支援のあり方の提示
 - F. 有事（新興感染症、自然災害など）における高齢者医療対策
- 2) 老年医学の診療・研究・教育の拠点形成及びそのための人材育成
 - A. 未来の老年医学・高齢者医療を担う老年科専門医の育成
 - B. 医学教育モデル・コア・カリキュラムを基盤とする老年医学教育体制の構築
 - C. 全国規模での高齢者医療研修の標準化とそれに基づく活動
 - D. 多様性のある会員(医師, 看護師, メディカルスタッフ等)の育成と活躍の場の提供
- 3) 老年医学に関するガイドライン作成, 普及, 啓発及び他学会・組織との連携強化
 - A. 安全な薬物療法ガイドラインの普及啓発
 - B. CGAガイドラインの発刊と普及啓発
 - C. 学術集会での他学会・組織との合同シンポジウムの開催
 - D. 他学会・組織と連携した高齢者の診療ガイドライン、治療指針の整備
 - E. 老年医学に関連する多職種向け資格認定制度の整備
- 4) 老年医学領域での国際的リーダーシップの強化

「健康長寿達成を支える老年医学推進5か年計画2024」

II フレイル予防・対策による健康長寿の達成

- 1) フレイル・自立介護支援に関するエビデンス構築とガイドライン整備
- 2) 実臨床へのフレイル対策の普及
- 3) フレイル予防・対策の実践

III 認知症への効果的な早期介入と社会的施策の推進

- 1) 認知症およびMCIの早期発見ならびにリスク軽減・予防に関する取り組みの**社会実装**
- 2) 認知症に対する社会全体の理解を深め、尊厳ある暮らしを可能にする社会環境の整備
- 3) ICT・IoT・ロボット技術・AIなどの先端技術を用いた認知症支援の推進

IV エイジフリー社会を目指した調査研究とその実現に向けた取り組み

- 1) 高齢者の定義に関する活動の推進ならびに国民との対話
- 2) 老年医学と老年学（ジェロントロジー）の融合および**社会実装**
 - －超高齢社会に対応した次世代型地域づくりを踏まえた健康づくり、生涯現役対策、生きがいの創出、住みやすいまちづくり等の**社会実装**とその学術的評価

V 基礎老化研究の育成・支援

- 1) 基礎老化研究発展のため各研究機関との情報交流の場の設置
- 2) 国立長寿医療研究センターや東京都健康長寿医療センターの基礎研究部門との連携強化
- 3) 次世代による基礎研究推進グループ（基礎老化研究部会）の設立

日本老年医学会

老年医学に関する研究の振興及び知識の普及、会員相互及び内外の関連学会との連携協力を行うことにより、老年医学の進歩を図り、もって我が国における学術文化の発展に寄与し、社会に貢献すること。

日本老年医学会はこれからも社会に目を向けて活動を行って参ります。そのためには、老年学会をはじめ様々な学会、団体と協働していく必要があると考えております。

ご協力をよろしくお願いいたします。